



日新製鋼 山本 昌
嘱託

1週間で修得できる人工語 日新ペースメーカーなる会社の社長を卒業（落第かな）して現在は閑職にあり。私の興味はもっぱら「憶えやすい人工語」をつくることにあります。目標は「1週間で修得」です。5年ほど前の広島大会で「ある人工語の試み」と題して一端を発表いたしました。その後第2次として「言語工学」なる一書をものにし、一部の興味をお持ちの方々に配布いたしました。それについて国沢先生や江副力氏などの方々から有益な助言、忠告をいただきそれをもとにして、第3次を考案中です。近く完了します。目標の半分ぐらいになりました。

なお、第2次の「言語工学」は余分があります。興味をお持ちの方にはおわけできます（無料）。直接お申し越しください。

（住所 〒565 吹田市千里山西1丁目26-15）

慶応義塾大学大学院 堀内和一郎
工学研究科管理工学

経営コンサルタントとして業立つ 現在、全国にチェーン展開をしている、小売店の個々の店舗の業績を評価するテーマをあつかっています。それは、店長が入れかわることにより、店の業績が変わってしまう問題に対する説明を求めることです。

そこで、視点をリーダーシップに持ってゆき、上司が行動等によって示すリーダーシップに対し、彼自身のそれに対する認識と、部下のそれに対する認識とのズレが、上司と部下を含む店の業績にどのようにかわりあい、業績の説明要因としてどの程度説明力を持つかわる

ようとしています。結果は、適当な学会に発表しようと考えています。

いま関心のあることといえば、管理者の能力、スキルの評価・訓練と、高齢化社会における企業組織の問題ですが、まだまだ初学者ですので、なんとも、コメントをここで示すところまでには至っていませんが、1つの問題意識、研究対象として考えています。

52年の4月からは「日本経営システム」に入社し、経営コンサルタントとして成長、活躍してまいりますのでよろしく。

東芝エンジニアリング(株) 西森 克巳

設計の自動化に取り組んで 数年来設計の自動化について、いろいろと仕事をしてきましたが、当初はコンピュータは何でもできるという“バラ色の人生”のような見方を周囲もしてきましたが、その夢も破れ、最近ではコンピュータを補助者として使用するという自動設計に変わってきたように思います。

人間の考えること、見ることすべてがコンピュータで代用できるようになればよいのですが、まだそこまでは無理らしく、とくにパターン認識がもっと自由にできないものかと痛感しております。このパターン認識がもっと発達すれば、設計の自動化もずっとよくなって、なおいっそう省力化に役立つようになると思われま

す。とくに最近、単に製造、設計の自動化のみならず、それらと原価、在庫、購売等を組合せたトータル・システムの傾向も目立ちはじめました。このような業務になりますと、ますますオペレーションズ・リサーチの考え方や手法が要求されてくると考えます。いま手はじめに、会社の若手技術者に対して、オペレーションズ・リサーチ概論の話をしております。

本誌においても、自動化の特集号を計画していただけたらと思っております。

日本航空東京空港支店 河村 啓一
国際旅客二課

空港に見る大都市の縮図 現在、羽田の国際線で、旅客の搭乗手続、CIQ（税関、出入国検査、検疫）の手助けなど、空港での旅客の便宜をはかっています。

羽田空港もご多分にもれず、旅客の急増を追いかける

つけ足し型施設で、30社近い内外の航空会社が乗り入れ、朝7時～9時、夜5時～8時のピーク時には大変混雑する。出発時のハイジャック防止手荷物検査、到着時の税関検査は、混雑をいっそう増長する。とくに、着陸後通関し、空港を出るまでに何時間もかかる場合は、航空の長所であるスピードが減殺される。また、日曜ともなれば、駐車場は空き待ち車で取り囲まれ、出迎人、見送人、見物人、旅客でごった返す。成田に移転してもパンクするそうです。移転後、成田、羽田両空港の乗り継ぎ客は不便になる。都心に近い空港は利用者には便利であるが、迷惑をこうむる住人は多くなる。

ラッシュ時の国電なみに発着する飛行機を前に、現代の大都市の抱える問題の縮図を空港に見る昨今です。

富山大学経済学部
経営学科 中山 幹夫

興味多い経済学的領域 私は現在ゲーム理論からアプローチしうる経済学的な領域、とくにコアとさまざまな資源配分との間になんらかの関係を見いだすことなどに関心を持っています。その中でも、経済が公共財を含む場合には、通常の設定によるコアは大きくなりすぎるため、これを小さくする興味深い工夫がいくつか考えられています。私は最近コアと公共財の費用調達のための税率とを直接結びつけることによってその問題を考察しています。

また、公共財はその利用において誰も排除されないという性質から、誰も自発的に費用を負担しようとしないうということ、つまりフリー・ライダーの問題がよく議論されますが、この問題は、各人の自発的負担額を戦略とする適当な非協力 n 人ゲームのナッシュ均衡点を考えることによって、より深い洞察が得られます。そのほかにも、混雑をともなう公共財を含む場合のコアの特性など、この領域は多くの興味ある問題を含んでいるように思います。

東北大学教養部
数学科 鈴木 義也

やりがいのある関数の構造的な研究 現在いちばん興味を持っていることとなると、数学を勉強してきた者としてはどうしても、専攻分野の話題になります。

解析学の1つの分科に関数の構造的な研究というのがあ

り、歴史的にみても長い遠い道程を経て、なお現在世界的な規模で研究がつけられているものの1つです。それだけに、問題は広く、深く分布して、やりがいのある仕事だと私は思っているのですが、研究者の数というと、他国からみて日本ではごく少数で、いつも残念がっています。もっとも、他の分野に比較して、基本的部分にふれることが多いので、なかなか成果が形になってあらわれないことが、若い人に人気のない理由ではないかとあきらめてはいます。

OR学会との関係はまだ浅く何年か前に秋の学会が仙台で行なわれたときに、ほんの少し雑用の手伝いをさせていただいたときからはじまっています。その後、先輩諸氏の啓蒙のおかげで、大分興味を持ってきました。息の長いおつきあいをお願いしたいと思っています。

大学では、いちおう確率統計学も講じてはいます。

所属学会は、本会の他には 日本数学会、日本数学教育学会等です。

田辺製薬
経営計算室 朝尾 正

経営関係のソフト 昨年8月からコンピュータを利用して経営関係のデータ処理を行なう職場を統轄することになりました。

過去、品質管理、生産管理、販売計画、統計解析計算等とコンピュータのユーザー側を歩いてきて、こんどはサービス側にまわったわけです。

コンピュータのハード面の進歩については仕事を通じてその実体にもふれてきていましたが、ソフト面、とくに経営戦略や戦略に、ほんとうに役に立つソフトの開発のおくれには少なからず驚いているのが実感です。

それにもう1つ、構造化プログラミングをはじめとして、ソフトウェアのエンジニアリング指向がいわれられていますが、書物や雑誌に記された点と実態との間にはまだ相当なギャップの存在が見うけられます。

幸いEDP部門の仕事の内容を見直す方法論として、「システム監査」についての発表が盛んになってきましたので、これを道具にして与えられた職務の内容を見直し、現状の位置づけを行なった後、本年度はゆっくりと目標を設定し、科学的管理のサイクルを回す予定でおります。

この方面での諸先輩のご指導を期待しております。